

# 4. 授業展開例及びワークシート

## 1. 中学校における消費者教育の指導計画例

### (1) 指導計画作成にあたって

「技術・家庭」の家庭分野における3年間の授業時数は、87.5 単位時間（1 学年 35 単位時間 + 2 学年 35 単位時間 + 3 学年 17.5 単位時間）と定められています。学習指導要領（平成 29 年 7 月公示）では、「3 学年間を見通して、内容 A から C の各項目に適切な授業時間を配当する」ように書かれています。

A から C の 3 つの内容

A : 「家族・家庭生活」

B : 「衣食住の生活」

C : 「消費生活・環境」

指導計画の作成にあたっては、中学校技術・家庭科、公民科、数学科、理科及び保健体育科などとの関連を図るとともに、他の内容と関連付けて指導するなど、限られた単位時間数の中で効果的に学習できるように作成する必要があります。また、具体的な事例をはじめ実験・実習などの実践的・体験的な学習や問題解決的な学習を通して理解させるよう工夫することも大切です。

「消費生活・環境」の配当時間は、「消費生活」5 単位時間・「環境」1 単位時間で計画するのが一般的です。「消費生活」や「環境」を A B の内容に盛り込んだり、関連付けて具体的に学習すると、より効果的です。今回は Web 版教材を活用しやすいように、右表のとおり 3 年間を見通した指導計画を作成しました。

### (2) 学習活動の工夫

学習指導要領では、「各学校が創意工夫して教育課程を編成できる観点や、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに生徒の興味関心に応じて課題を設定できるようにする観点から、地域、学校及び生徒の実態に応じて、創意工夫を生かしつつ、全体として調和の取れた具体的な指導計画を作成することが重要である」としています。

情報があふれる現代で物資・サービスの適切な選択ができるようにするためには、「情報収集、比較検討、目的に合った商品を意思決定する」という過程を繰り返し経験させることが大切です。

また、「消費者の権利と責任」は通常 1 単位時間で計画するのが一般的ですが、中学生に身近な事例と関連付けながら 3 学年を通して少しずつ「消費者の権利と責任」を計画することも効果的です。

### (3) 本 Web 版教材の活用方法

本 Web 版教材は 3 部構成で、ステージごとに前半・後半に分かれており、学習内容に応じて必要な部分を活用できる構成になっています。各ステージの前半は、中学生にとって身近な本や T シャツ・ドライヤーを購入する疑似体験を通して、販売方法や商品の情報を収集、比較検討し、目的に合った商品の購入に関する意思決定を学習することができます。ステージの後半では、前半の内容を掘り下げた形で「消費者の権利と責任」について学習することができます。消費者の買い物（購入）は個人の満足を満たすと同時に企業への投票行動であり、企業や社会をも変える力を持っていることにも触れています。

更に、内容 C 「消費生活・環境」の「環境」に関わる持続可能な社会の学習にも十分対応しており、必要な場面を抜き出して活用することができます。また、内容 B 「衣食住の生活」の「衣生活」から既製服の表示の種類と意味、取扱い絵表示の学習などにも活用することができます。

本 Web 版読本は一人ずつパソコンを使用して学習を進めることを前提としていますが、使用する教室のインターネット環境に応じて、1 台のパソコンで一斉学習をしたり、班ごとにタブレットを使用して進めることも可能です。

(4) 内容「C 消費生活・環境」に関わる指導内容と本教材の活用例

題材名	時間	小題材名	ステージ1	ステージ2	ステージ3	まとめ	
			どこで本を買う？	トラブルが起きたとき君ならどうする？	どのTシャツを買う？		Tシャツに隠された事実
学習項目							
C 消費生活・環境 全6時間	消費者としての自覚を持つ	1	・自分たちの消費生活について考えよう				
	販売方法と支払い方法について知ろう	1	・販売方法の種類と特徴について知ろう	○			○
			・支払方法の種類と特徴について知ろう	○		○	○
	商品の選択と購入について考えよう	1	・商品の選択と購入について考えよう	○		○	○
			・商品購入のための生活情報の収集や活用方法を考えよう	○		○	○
			・エシカル消費を理解しよう			○	○
	消費者トラブルを解決する方法を考えよう	1	・契約について知ろう		○		○
			・消費生活のトラブルを理解し予防法や対処法を考えよう		○		○
			・クーリング・オフの方法を理解しよう				○
	消費者の権利と責任について考えよう	1	・消費者を支える法律や制度について知ろう		○		○
・消費者の権利と責任について考えよう			○	○	○	○	○
よりよい消費生活を目指して	1	・環境に配慮した消費生活を考えよう(グリーンコンシューマー等)			○	○	○
		・持続可能な社会に必要なライフスタイルを考えよう			○	○	○
		・エシカル消費を考えよう			○	○	○

(参考)

B 衣食住の生活	日常着の活用	・衣服の活用と選び方			○		○
	日常着の手入れ	・衣服の素材と手入れ			○		○
		・衣服の洗濯			○		○

(5) 内容「C 消費生活・環境」に関わる本教材の評価規準の例

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	消費生活と環境について理解し、基礎的・基本的な知識や技術を身に付けている。	消費生活と環境について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想して解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、家庭生活と消費について主体的に取り組んだり改善したりして生活を工夫し創造し実践しようとしている。
学習活動に即した具体的な評価規準	○消費者の基本的な権利と責任や自分や家族の消費生活が環境社会に及ぼす影響について理解している。 ○物資・サービスの選択、購入及び活用について理解し、計画的な金銭管理の方法について理解している。 ○物資・サービスの選択・購入及び活用について必要な情報を収集・整理が適切にできる。	○物資・サービスの購入について、自立した消費者としての消費行動に問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想したり実践を評価・改善したりする力を身に付けている。 ○環境に配慮した消費生活について、その課題の解決を目指して工夫し実践する力を身に付けている。	○よりよい消費生活の実現に向けて、消費者の権利と責任、金銭管理と購入について関心をもって学習し、課題に解決主体的に取り組んだり自分の生活を振り返って改善したりして、工夫し創造しながら実践しようとしている。 ○自分や家族、地域の人々と協働して消費生活や環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして実践しようとしている。

## 2.Web 版消費者教育読本を活用した授業展開例及びワークシート

### 授業展開例 ① ステージ1 どの本を買う？

#### ●想定する授業スタイル

中学校（家庭 1年生）「商品の選択と購入」の授業  
パソコン室 生徒各1台

#### ●小題材名

商品の選択と購入（販売方法と支払い方法）

#### 題材の目標

・商品（物資とサービス）の販売方法と支払い方法の種類と特徴を理解する。

#### ●題材名「商品の選択と購入（3時間）」とのかかわり

時間数	1時間	1時間	1時間（本時）
小題材名	①商品購入のプロセス	②生活情報の活用と商品の価格	③販売方法と支払い方法

#### ●学習指導過程

時間	主な学習活動	指導上の留意点	教材・資料
導入 5分	●日常の買い物をどこでするか考える。	グループごとに、衣服、文具、運動靴、飲み物など購入する身近な商品を決めさせ、買い物する場所が偏らないように発問する。	ワークシート 指導者用資料（パワーポイント）
展開Ⅰ 10分	●Web版読本で「どこで本を買う？」を疑似体験する。	「夏休みの課題図書」を4つの店舗を比較して購入するように伝える。  ※説明する時は、生徒のPCはロックする。  ワークシートに各店舗の情報を記入し、整理するよう助言する。本を購入したら、選んだ理由を記入させる。	Web版読本  ワークシート
20分	●どこの店で購入し、どのような方法で支払いをしたか、理由とともに発表し、互いの意見からそれぞれの特徴を考える。  ●販売方法と支払い方法の種類と特徴を考え、ワークシートに記入する。	発表者の画面を前に映し、様々な販売方法や支払い方法の種類や特徴に気付かせる。  販売方法や支払い方法の長所と短所を理解させる。 近年増加傾向にある、通信販売や電子マネーの利用上の留意点を説明する。	ワークシート  指導者用資料（パワーポイント）
展開Ⅱ 10分	●購入条件を変更して、Web版読本「どこで本を買う？」を再度疑似体験する。	購入者や購入時期などの条件が変わると、販売方法や支払い方法の選択の基準も変わることを理解させる。 消費者には「選択する権利」や「知らされる権利」が保証されていることに気付かせる。	Web版読本  ワークシート
まとめ 5分	●学習内容をワークシートにまとめる。	販売方法や支払い方法の特徴を理解することで、購入時の状況に応じたよりよい選択ができるようになることを伝える。	ワークシート

指導者用資料（パワーポイント）、生徒用・解説付ワークシート（エクセル）は、Webからダウンロードできます。

授業に合わせて、使いたいところだけ加工して使うことができます。



ワークシート ステージ1 どこで本を買う？

月 日 ( ) 年 組 名前

- 次の商品をどこで買うが考えましょう。  
以下の選択肢から選んだ商品1つに○を付け、思いつく販売方法をすべて書きましょう。  
Tシャツ、ジュース、シャーペン、  
ジュース、その他 ( )  
(Tシャツの場合) スーパー、デパート、専門店、  
カタログ販売、ネットショッピング など
- 夏休みの読書感想文を書くために「吾輩は猫である」を1,000円以内で買ってくださることにしました。  
Web版読本を見て、4つの店舗から「どこで、本を購入するか」決定しましょう。

大型書店	リサイクル店	本屋	ネットショッピング
価格 (税込)	2冊とも800円。	110円、400円。	2冊とも800円。 換の場合手数料200円がかかる。
支払い方法	現金、図書カード、クレジットカード、QRコード決済	現金	現金、図書カード
品揃え	品ぞろえが豊富な入りやすい。	欲しい本が必ずあるとは限らない。	欲しい本から店を探すとができるので、簡単に店を探せる。
安心感 (接客含む)	手に取って見る事ができる。 夏休みの課題図書コーナーがあるので、本を探しやすい。	店員に気軽に相談ができる。 手に取って見ることができるとは限らない。	疑問点を店員に聞くことができる。 手に取って見ることができない。
品質	新品	古い	新品
その他 (気付いたこと)	スマートフォンでも買える。		購入までの手続きが複雑。 本が届くまでに時間がかかる。

3. 以下の選択肢をヒントに、店舗を決定した理由を書きましょう。

選んだ店舗	価格	支払い方法	品揃え	安心感 (接客含む)	品質	その他
選んだ理由	選んだ理由					
品揃え	大型書店は、陳列棚が工夫されていて簡単に本を探ることができるから。品ぞろえが豊富なので、比較して買うことができるし、欲しい本が確実に手に入りそうだから。					

4. 販売方法の種類について、あてはまる言葉を ( ) に書きましょう。

( 店 舗 ) 販売	専門店	デパート	直売所
( 無店舗 ) 販売	スーパーマーケット	コンビニエンスストアなど	
	( 通 信 ) 販売 ( ネットショッピング、テレビショッピング、カタログ販売など )	訪問販売	自動販売機

5. 店舗販売と無店舗販売の特徴 ( メリット・デメリット ) を書きましょう。

	店舗販売	無店舗販売
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品を直接手に取って見ることができる。</li> <li>他の商品と比較することができる。</li> <li>店員から説明してもらいやすい。</li> <li>店舗がないと、購入できない。</li> <li>営業時間に行かないと、購入できない。</li> <li>店舗にない商品はその場で購入できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗に行かなくても、自宅で商品を購入できる。</li> <li>通信販売は、営業時間を気にせず購入できる。</li> <li>通信販売は、実物を直接見ることができない。</li> <li>通信販売は、店員から説明してもらいやすい。</li> <li>訪問販売は、他の商品と比較検討できない。</li> </ul>
デメリット		

6. ( ) の中に当てはまるカードの名前を書きましょう。

支払方法	カードの種類	機能
前払い	プリペイド型 ( 電子マネー )、 ( 図書カード ) など	事前にお金を支払って、付与されたカード金額まで買い物などに利用できる。
即時払い	( デビット ) カード	カード利用と同時に、代金が銀行口座から引き落とされる。
後払い	( クレジット ) カード	買い物の後に、代金が銀行口座から引き落とされる。

7. もう一度、ステージ1を見て、「どこで、本を購入するか」考えましょう。ただし、購入条件を変更します。  
以下の条件を基に、再度お店を決定しましょう。

目的	購入時期	選んだ店舗
( 兄 ) のために、( 明後日の誕生日 ) までに購入する		本屋
例) 祖父母に頼まれて、「吾輩が猫である」を買って、明日帰省する		
情報のヒント	価格	支払い方法
選んだ理由	安心感 ( 接客含む )	品質
安心感	新品の本を、店員さんに相談しながら、購入することができる。	
その他	ネット通販だと、家に届くまでに時間がかかるので、選択しなかった。	

8. 発表したり、話し合ったりした後、気付いたことを書きましょう。

同じ商品を購入しようとしても、目的や購入時期などが違えば、お店の選択肢が変わってくるのが分かった。
支払方法も、現金以外にいくつかの方法から選べるのが改めて分かった。店舗販売、無店舗販売にも、それぞれメリットとデメリットがあることが分かった。

9. 今日の学習を振り返り、これからの生活に生かしたいことを書きましょう。

「本を買う」という単純な買い物でも、目的や購入条件が違えば、購入する店も異なってくることに気付いた。
購入したい商品の知識が足りないときは、詳しい店員がいるお店を選んだり、その商品をよく知っているときは、品ぞろえの豊富な店や色々な支払方法が選べる店を選択したりするなど、今後は自分の目的に合った店で買い物をしたいと思った。

## 授業展開例 ② ステージ2 Tシャツに隠された事実

### ●想定する授業スタイル

中学校（家庭 2年生）「持続可能な社会」の授業  
 教員用パソコン1台（生徒は端末なし）

### ●小題材名 持続可能な社会

#### 題材の目標

- ・自分や家族のためだけでなく消費者の行動が社会に影響力を持つことを知る。
- ・身近な消費者問題や環境問題に対して、消費者として解決のための工夫を考える。
- ・持続可能な社会に向けて、環境に配慮した消費生活を実践しようとする。

### ●題材名「商品の選択と購入（3時間）」とのかかわり

時間数	0.5時間	0.5時間	1時間（本時）
小題材名	①自ら取り組むエコ生活	②地域や社会での協力	③持続可能な社会に向けて

### ●学習指導過程

時間	主な学習活動	指導上の留意点	教材・資料
導入 5分	●「持続可能な社会」の内容を確認する。	「持続可能な社会」と関連するキーワードをワークシートに記入させ、身近な消費生活が「持続可能な社会」と密接なかかわりがあることに気付かせる。	ワークシート
展開Ⅰ 20分	●Web版読本「Tシャツに隠された事実」を疑似体験する。	各項目のキーワードをワークシートに記入しながら進めるように伝える。  ワークシートに記入させるだけでなく、授業を振り返りながら確認させたり、説明を入れたりして理解を促す。	Web版読本 ワークシート
展開Ⅱ 20分	●「持続可能な社会」の構築に向けて、自分や家族、企業ができることは何か、各班で話し合う。  ●各班でまとめ発表する。 ●他の班の発表内容を記入する。	自分の意見をまとめワークシートに記入した後、話し合いをするように伝える。  各班の話し合いの中で、さらに気づきを深めるように助言する。  話し合った内容をまとめ、発表することで学級全体への共有化を促す。	ワークシート  ワークシート
まとめ 5分	●これまでの学習内容をワークシートにまとめる。	「持続可能な社会」の構築に向けて行動を起こすことが重要であることや、その行動が、消費者の責任でもあることに気付かせる。	ワークシート

## ワークシート ステージ2 Tシャツに隠された事実

月 日 ( ) 年 組 名前

1. 「持続可能な社会」を実現するために、必要な事柄は何かキーワードを書きましょう（複数可）。

環境に優しい生活、省エネルギー、ごみを出さない生活、地球温暖化防止、自然環境を守る  
リサイクル など

2. Web 版読本を見ながら、( ) に当てはまる言葉を記入しましょう。

買い物は投票行動	1人の購入は（ 1票 ）にすぎないけれど、同じ商品を選ぶ人が（ 増える ）と、その企業の利益が増え、次の企業活動につながる。  価格が同じ商品でも、その内訳は企業の努力や考え方で変わってくる。カートくんが選んだTシャツのように、商品の原料代が約（ 1 ）%という商品がある。
Tシャツに隠された事実	安い商品の裏側には、（ 児童 ）労働の問題や（ 農薬 ）による健康被害などの問題が隠れていることがある。
買い物のチカラ	倫理的、道徳的な消費行動を（ エシカル ）消費という。また、発展途上国と公平な取引をする貿易の仕組みを（ フェアトレード ）という。

3. 2の問題を解決するために、自分や家族ができること、企業に望むことを書きましょう。

価格だけではなく、製造工程で環境や生産者に配慮した製品を購入するように心がける。  
エシカル消費やフェアトレードのことをもっと調べてみる。  
企業には、フェアトレードの商品を買えるようにしてほしい。

4. 発表したり、話し合った後、気付いたことを書きましょう。

もしかしたら、自分たちが着ているTシャツを製造している人が農薬で健康を崩しているかもしれない。  
フェアトレードの商品を買うことは、製造者に正当な賃金を支払うことができる。  
フェアトレードの商品は高いと聞いた。お小遣いで買えるか心配だと思った。

5. これまでの「消費生活と環境」の学習を振り返り、「持続可能な社会」に向けて、環境に配慮した消費生活を実践するために、これから自分ができることを書きましょう。

私は今まで省エネを心がけてきたが、今日の学習で自分が購入している商品が、海外の生産者に影響しているかもしれないことを初めて知った。これからは商品を買うときに、フェアトレードのマークを探してみたい。

## 授業展開例 ③ ステージ3 こしょう(故障)?ごしょう(誤使用)?どうしよう!!

### ●想定する授業スタイル

中学校(家庭 3年生)「消費者の権利と責任」の授業  
 教員用パソコン1台(生徒は端末なし)

### ●小題材名 消費者の権利と責任

- 題材の目標
- ・身近な消費生活から、「消費者の権利と責任」がどのようにかかわっているかを理解する。
  - ・消費者としての責任を果たすために、自分ができることを考える。

### ●題材名「よりよい消費生活のために(3時間)」とのかかわり

時間数	1時間	1時間	1時間(本時)
小題材名	契約と消費生活のトラブル	消費者を支えるしくみ	消費者の権利と責任

### ●学習指導過程

時間	主な学習活動	指導上の留意点	教材・資料
導入 5分	●身近な商品の事事故例から、自分の生活を振り返る。	生活の中で「ヒヤリ・ハット」した経験はないか思い起こさせる。身近な製品の事事故例を紹介し、原因を考えさせる。	ワークシート 指導者用資料(パワーポイント)
展開Ⅰ 20分	●Web版読本「どうして事故が起こるのか考えてみよう」を疑似体験する。  ●Web版読本「企業の責任を考える」を疑似体験する。	商品の取り扱いを間違えると事故につながることを知らせ、説明書や注意書きを読むことの重要性を理解させる。  商品を正しく使用していたにも関わらず事故が起きた場合、消費者には「補償を受ける権利」があることを伝える。  消費者を救済する制度があることを学ばせる。	Web版読本 ワークシート  Web版読本 ワークシート  指導者用資料(パワーポイント)
展開Ⅱ 15分	●「消費者の権利と責任」について学習する。  ●Web版読本「君の力で社会を動かす。消費生活センターに相談してみよう」を疑似体験する。	消費者基本法について説明し、「消費者の権利と責任」について理解させる。  消費者の相談窓口(企業のお客さま相談室、消費生活センター等)を紹介し、個々の相談事例が国や企業を動かすこともあることを説明する。  消費者の行動が社会を変える力を持っていることに気づき、消費者の責任や行動することの重要性を理解させる。	Web版読本 ワークシート
まとめ 10分	●自分の生活を振り返り、消費者の権利を実現し、責任を果たすことができる場面がないかを考える。  ●クラスで意見を交換し、生活に即した場面での権利と責任を考える。	商品を正しく扱うことや、製品のトラブルなど個人の体験を社会に正しく発信していくことが消費者の権利と同時に責任を果たす行動であることを伝える。  自らの問題意識や行動すべき内容を自分の言葉で整理して、他の生徒に伝えられるようにする。	ワークシート

## ワークシート ステージ3 こしょう(故障)?ごしょう(誤使用)?どうしよう!!

月 日( ) 年 組 名前

1. Web 版読本「火花が散る実験映像」を見て、( ) に当てはまる言葉を書きましょう。  
実験映像では、どうしてドライヤーから火花が散ったのでしょうか。その理由を書きましょう。

理由：コードが断線しかかっているのに、ドライヤーを使い続けたから。

2. 1 のような製品事故を起こさないために、どうすればよいでしょうか。  
警告表示や説明書を見ながら具体的な方法を書きましょう。

警告表示に書かれた通り、本体に電源コードを巻きつけない。コードが変形していたら、使用しない。

髪の毛が巻き込まれないように、本体を近づけすぎで使用しない。

電源を入れたままその場を離れない。

3. Web 版読本を見ながら、( ) に当てはまる言葉を書きましょう。

(ア) ( 製造物責任 ) 法とは、製造物の欠陥が原因で人や周りの物に被害を受けた場合に、損害を賠償する制度のことである。

(イ) ドライヤーで火災事故が起こった時など、( 企業 ) は重大な事故情報を ( 消費者庁 ) に連絡する義務がある。

(ウ) 企業のお客様相談室や消費生活センターに相談することは、消費者の ( 情報 ) が集まることでもある。相談という個人の ( 行動 ) が ( 社会 ) を動かす力をもつこともある。

4. Web 版読本を見ながら、自分ならどうするかを考えてみましょう。

(ア) 自分や家族、友人が、ドライヤーなどの製品を使っていて、「ヒヤリ・ハット」した経験を書いてみよう。  
(お母さんが髪の毛を乾かそうとしたら、髪の毛が焦げたと言っていた。やけどをしたかもしれないと思った。)(イ) (ア) のようなときに、自分ならどういった行動を取ればよいのか、教材で学んだことを踏まえて考えてみよう。  
(家族が間違った使い方をしなかったか聞く。間違っていなかったら、消費生活センターに相談してみる。)

5. 「消費者の権利と責任」の歴史や内容について、( ) に当てはまる言葉を書きましょう。

(ア) 「消費者の権利と責任」は、1962年のケネディ大統領による「消費者の4つの ( 権利 )」や、1982年の国際消費者機構(CI)による「消費者の8つの ( 権利 ) と5つの ( 責任 )」などを通して確立されてきた。日本でも、2004年に成立した消費者基本法に「消費者の8つの ( 権利 )」が明記された。

(イ) 8つの権利とは、( 安全 ) を求める、知らされる、選択する、( 意見 ) を反映させる、( 補償 ) を受ける、( 消費者教育 ) を受ける、生活の基本的ニーズが ( 保障 ) される、健全な ( 環境 ) を享受する権利である。

(ウ) 「消費者の5つの ( 責任 )」とは、( 批判的意識 ) を持つ、( 主張し行動 ) する、( 社会的弱者 ) への配慮をする、( 環境 ) への配慮をする、( 連帯 ) する責任のことである。

6. 今回の学習を通して、「消費者が権利を実現し、責任を果たす」ために、普段の生活でどのようなことができるのか、考えてみましょう。

製品を正しく使うことが、まず一番大切なことだと感じた。それでも事故が起きた場合は、消費生活センターに相談したり、メーカーや販売店にきちんと伝えて、原因を調べてもらうことも大事だと思った。自分に起きたトラブルを正確に伝えるための行動を起こすことが、自分や家族だけでなく、社会のためにもなることなのだと分かった。



# ワークシート 消費者の権利と責任

月 日 ( ) 年 組 名前

## 批判的意識を持つ責任



WEB版読本



消費者教育を受ける権利

SCHOOL

意見を反映させる権利



選択する権利

知らされる権利

消費生活センター



安全を求める権利

主張し行動する権利

社会的弱者への  
配慮をする権利



連帯する責任

HOSPITAL

補償を受ける権利

基本的なニーズが保障される権利

環境への配慮をする権利

健全な環境を享受する権利

1. 消費者の権利と責任について、( ) に当てはまる言葉を書きましょう。

消費者の権利とは、1962年のケネディ大統領による「消費者の4つの(権利)」や、1982年の国際消費者機構(CI)による「消費者の8つの(権利)と5つの(責任)」などを通して確立されてきた。

日本でも、2004年に成立した消費者基本法に「消費者の8つの(権利)」が明記された。

2. Web版読本を見ながら、「消費者の8つの権利と5つの責任」について( ) にあてはまる言葉を書きましょう。

※①②③④は、ケネディの4つの権利

消費者の8つの権利	身近な例
①(安全)を求める権利	安全なドライバーを使うことができる。
②(知らされる)権利	本屋の店員が、本の特徴を教えてくれる。
③(選択する)権利	いろいろな店やいろいろな商品から、選んで買うことができる。
④(意見)を反映させる権利	ヨーグルトや自動車などの製品が消費者の声を受けて改良される。
⑤(補償を受ける)権利	正しく使っていたにもかかわらず、製品が原因でけがをしたら、企業に治療費を負担してもらえる。
⑥(消費者教育)を受ける権利	Web版消費者教育読本で、「消費者の権利と責任」の勉強をする。
⑦生活の(基本的ニーズ)が保障される権利	食料、水などの生活必需品が、いつでも好きな時に手に入る。
⑧健全な(環境)を享受する権利	農薬の大量使用を禁止し、土地や人間が悪影響を受けることがないようにする。

消費者の5つの責任	身近な例
(批判的意識)を持つ責任	商品の背景の理由を調べ、自分の言葉で説明できるようになる。
(主張し行動)する責任	商品の不具合を見つけた時に、企業に理由を言って交換してもらう。
(社会的弱者)への配慮をする責任	途上国の生活を意識して、フェアトレードの商品を購入する。
(環境)への配慮をする責任	環境に負荷のかからない方法で作られた商品を購入する。
(連帯)する責任	「ヒヤリ・ハット」したことを相談窓口の情報提供することで、ほかの消費者のトラブル防止につなげる。

3. 「消費者が権利を実現し、責任を果たす」ために、普段の生活でどのようなことができるのか、考えてみましょう。



商品を買うときには、どうやって作られてきた商品なのかをよく考えて買うかどうかを決めることが、消費者の責任を果たすことだと思った。また買った商品で事故が起きたときは、原因をよく調べて、単なる悪口ではない、正確な情報を、企業や行政に伝えることも大きな責任だと思った。それが自分以外の人たちの役にも立つし、社会を変えることにもつながると思った。一人ひとりのこうした行動によって、安全な商品を選択したり、環境や生活のニーズが守られる権利につながると思う。そのために、消費者教育の教材で学ぶ権利もあるのだと感じた。



過去の教材は HP からダウンロードできます。

▶ 東京くらし WEB <https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/>

平成 19 年度中学生向け Web 版消費者教育読本 (令和 2 年度改訂版)



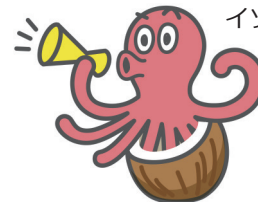
令和 2 年度は、もう一つ改訂しました！  
楽しく学習できます。  
キャラクターが充実！漫画もあるよ。



イカ先生



イソギン・チェック  
相談員



ココタコ

#### 平成 27 年度消費者教育読本作成検討会委員

小谷野 茂 美	東京都青梅市適応指導教室長
本 間 紀 子	四谷の森法律事務所 弁護士
秋 田 博 昭	教育庁指導部義務教育指導課指導主事
原 郁 子	品川区立戸越台中学校 主幹教諭
小野田 祥 子	板橋区立志村第四中学校 主任教諭

#### 協 力

特定非営利活動法人 ACE (エース)  
(独) 製品評価技術基盤機構 (NITE)  
(公社) 消費者関連専門家会議 (ACAP)

#### 編集・発行 東京都消費生活総合センター

〒 162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 16 階  
Tel 03-3235-1157 Fax 03-3235-1505  
東京くらし WEB <https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/>

#### デザイン 株式会社セルコ

〒 150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-5-2  
Tel 03-3409-8923

平成 28 (2016) 年 3 月 初版発行 令和 3 (2021) 年 3 月改訂 第 2 版発行

カートくんの買い物 なびげ~しょん - 「消費者の権利と責任」の社会 -

Copyright ©2021 Tokyo Metropolitan Government All Rights Reserved